# 非鉄金属

## アルミスクラップ
# 二次合金メーカー買値
## 4月前半積み
# 新塊安値で据え置き

アルミ二次合金メーカー大手と原料問屋による、4月前半積み原料価格交渉はこのほど一巡。新切サッシ（63S）などの上物類、機械鋳物アルミなどのスソモノ類ともにおおむね前回から据え置きで決着した。アルミ新塊価格の安値こう着、需要に改善の兆しが見られないことから上値が抑えられた。

指標となるLME（ロンドン金属取引所）アルミ市況は足元で現物1485ドル（前場、セツルメント価格）、先物1505ドル（後場）。4月に入って以降も1500ドル台を下回る水準で低迷しており、国内アルミ新塊価格も同値圏内を推移している。原油価格の下落基調に加えて上海、米国株安が市況の重しとなっているもようだ。

ある原料問屋は「前月までの流れでは引き下げの可能性もあったが、市中発生薄によるタイト感からなんとか食い止められた格好」と説明。

新切サッシ（63S）など軽圧メーカー向けの上物類ではキロ2～3円引き下げられた向きもある。一方、前回に引き下げ幅の大きかった向け先については安値修正が実施されたもようだ。

発生量は品種によってまちまちだが、おおむね「深刻な品薄が続いている」の声が大勢。比較的堅調だった印刷版も「4月に入ってなくなった」（同）という。今後、UBC（プレス済みアルミ缶）は季節的需要により若干の発生増が予想されているが、次回以降の値上げ交渉については悲観的な観測をする声も聞かれる。

Fujikura
株式会社フジクラ
www.fujikura.co.jp

## 自動車用アルミ材
# 米に研究開発センター開設
アルミ押出大手 欧州サパ

アルミ押出世界最大手の欧州サパは5日、子会社のサパ・テクノロジー・アメリカが米国・デトロイトに自動車用アルミ材の研究開発センターを開設したと発表した。

新拠点では材料の研究をはじめとして要素解析や熱伝導解析、表面処理技術、摩擦攪拌接合などの接合、凝固・鋳造技術、ビレットの品質評価など広範囲なサービスを提供する。

米国における自動車産業の集積地に研究開発拠点を開設することで、ユーザーニーズをタイムリーに取り込み、需要を開拓していく。

## 米・国際貿易委員会
# 世界のアルミ取引実態 調査
## 中国材流入など焦点に

米国国際貿易委員会（USITC）は6日、米国のアルミ産業の現況と世界的なアルミ製品の取引状況についての調査を開始すると発表した。調査対象は米国を初めとした主要なアルミ地金、半製品（加工品）の生産国や輸出国。併せて主要各国のアルミ業界の特性や生産量や輸出量、消費量および価格などを含む直近の貿易動向を調査する。今後9月29日に調査のための公開ヒアリングを開催し、17年6月24日に調査結果を公表する計画としている。

米国のアルミ製錬業界をめぐっては、中国メーカーの供給過剰問題や再溶解目的の半製品（偽装地金）の輸出疑惑などにより市場が混乱。安価な中国材の流入によってアルミ価格が低下し、多くの製錬所が閉鎖・休業に追い込まれている。厳しい環境に追い込まれている米国アルミ産業界の要望を受けたケヴィン・プレイディー委員長は2月24日にUSITCに対して調査を要請。今回、この要望が承認されたかたちで調査の開始が決定された。

発表では特定の国名は挙げなかったものの「市況の下落を誘引しているとされる中国材の実態調査が焦点になるのではないか」（メーカー筋）と指摘されている。

## 電気銅生産
# 2月、12%増の12万7000トン
# 5カ月ぶり前年超え

経済産業省がまとめた生産動態統計（速報）によると、2月の電気銅生産は、前年同月比12・1%増の12万7459トン、出荷は同比15・6%増の12万7654トンとなった。前年に一部製錬所の定修などがあったため、生産、出荷とも同比2ケタのプラスとなり、生産は5カ月ぶり、出荷は2カ月連続で前年同月を上回った。

亜鉛は、生産が同比1・8%減の4万66トン、出荷が同比14・7%減の4万422トン。生産は7カ月連続の同比マイナス、出荷は8カ月連続の同比マイナスだった。

## 世界最大の銅需要国
## 銅価格低迷
# 世界の大手産銅会社 本格減産 実現せず
# コスト削減、当面の課題に

世界最大の銅需要国である中国の需要鈍化が大幅な減産で相殺され、需給均衡が達成されるのではないかとの期待は、今週チリ銅・鉱業研究センター（CESCO）が開催した年次会合で葬り去られた。

その代わり会合出席者らは、銅価格が低迷する中での生き残り策として、コスト削減への重点的な取り組みが当面課題になるとの結論に達した。

複数の関係者によると、産銅業者は自社の利益のみを追求する選択が、全体の合理的な選択にならない「囚人のジレンマ」に直面し加速するか、価格主導（コデルコ）のピサロのジョン・マッケンジー会長は「価格主導の減産は実質的に停止した」と述べた。

5日にはチリ銅公団銅価格は2011年のトン当たり1万ドルから4800ドル前後に落ち込んだ。産銅各社は赤字生産の縮小ではなく、業務効率化や生産性改善に集中的に取り組むことでコストをさらに引き下げる意向だ。

アナリストらの推計によると、価格主導型（時事）

マントス・カッパー　キャッシュ・ベースでコストをポンド当たり0・50ドル、約20%削減で、生産コストは既に低下傾向にある。ただ、関係者らは減産が大幅に進む見込みはないとの認識にある。

調査会社CRUで銅の調査戦略を担当しているバネッサ・デービッドソン氏は、会合で「今年の減産は10万トン未満の小幅にとどまると予想している」と語った。（ロイターES

エネルギー価格の低迷や為替相場安が要因で、今年の世界の需要（2200万トン）のほんの一握りに過ぎず、業界の減産は昨年末時点で65万トン。ただ、これは

## 米国際貿易委員会
# 世界のアルミ取引実態 調査
## 中国材流入など焦点に

米国国際貿易委員会（USITC）は6日、米国のアルミ産業の現況と世界的なアルミ製品の取引状況についての調査を開始すると発表した。調査対象は米国を初めとした主要なアルミ地金、半製品（加工品）の生産国や輸出国。併せて主要各国のアルミ業界の特性や生産量や輸出量、消費量および価格などを含む直近の貿易動向を調査する。今後9月29日に調査のための公開ヒアリングを開催し、17年6月24日に調査結果を公表する計画としている。

米国のアルミ製錬業界をめぐっては、中国メーカーの供給過剰問題や再溶解目的の半製品（偽装地金）の輸出疑惑などにより市場が混乱。安価な中国材の流入によってアルミ価格が低下し、多くの製錬所が閉鎖・休業に追い込まれている。厳しい環境に追い込まれている米国アルミ産業界の要望を受けたケヴィン・プレイディー委員長は2月24日にUSITCに対して調査を要請。今回、この要望が承認されたかたちで調査の開始が決定された。

発表では特定の国名は挙げなかったものの「市況の下落を誘引しているとされる中国材の実態調査が焦点になるのではないか」（メーカー筋）と指摘されている。

## 日軽金グループの東南ア前線基地
# ニッケイ・サイアム

日本軽金属のタイ子会社「ニッケイ・サイアム・アルミニウム・リミテッド」（NSA）は、創業事業のアルミ圧延業のほか「熱交事業」「パネル事業」をアマタナコン事業所で展開している。日本品質や納期対応などを武器に、タイ国内市場でのシェアを拡大している。同社の2事業を取材した。（タイ・チョンブリー発＝遊佐 鉄平）

上

## アマタナコン事業所
## 熱交事業
# エアコン市場でトップ堅持
## 日本向け 産業用熱交も生産開始

古牧熱交事業部長

方㍍と広大な土地を持つ特徴を持つ熱交換器。自動車エアコンのほか家電などさまざまな冷凍・冷蔵・空調関連での採用が拡大している。

PFCは、冷媒の入り口と出口に配置された1対の「ヘッダー管」と、その間に複数配置された小型・軽量化というトレンドに対応する。押出扁平管はアルミ製コイル後に切断、プレス、スリット、洗浄などの工程を経て、組み付けラインへと運ばれる。ヘッダー管は押出扁平管をセットするための穴あけ加工などを施す。

組立工程では、コルゲートフィン、押出扁平管は自動機でセットされ、さらにヘッダーやその他の部品はスタッフの手で組み合わせていく。組み上がった製品は、ノコロック式連続ろう付けラインで各部材を一体接合し、リーバー加工、折り曲げ加工を施し、所定の長さに切断することで熱交換器1台分のコルゲートフィンが完成する。押出扁平管はアルミ製コイル後に切断、プレス、スリット、洗浄などの工程を経て、組み付けラインへと運ばれる。ヘッダー管は押出扁平管をセットするための穴あけ加工などを施す。

組立工程では、コ